



助けあい 支えあいで 縁結び

あいあいねっと通信

1

月

謹んで新春の祝詞を申し上げます。本年も、皆様がご健勝でご多幸でありますよう、心からお祈り申し上げます。

昨年は、日本の一次産業の衰退が心配される中、地球温暖化による農作物の収穫量や漁獲量の減少、品質低下が深刻となり、終わりの見えない物価高騰に不安が広がりました。あいあいねっとの個人食料支援には、支援を望む連絡が絶えず、特に高齢者からの連絡が多くありました。そこで、昨年11月から

「広島市生活困難者支援活動事業費補助金」を活用し、生活に困難を抱える高齢者を対象に、お米2kgを2袋またはパックご飯25個を提供する活動を始めました。高齢者は、若い方に比べて情報を得ることが難しい傾向にあります。そこで、高齢者に食料支援を呼びかけるため、ケアマネージャー、地域包括支援センター、くらしのサポートセンター、民生委員、生活者支援団体などに協力をお願いしました。現在、約70世帯へ食料支援を行いました。今後、社会福祉協議会を通じて呼びかけを拡げていく予定です。ご協力くださいました皆様に、お礼を申し上げます。

9月には、『食支援勉強会』を開催しました。この勉強会は、円滑な食品アクセスの確保を目的に、農林水産省の補助事業を受け、愛媛県のNPO法人eワーク愛媛が主催しました。香川県、愛媛県、山口県、岡山県、広島県の会場で順次開催しました。広島会場では、あいあいねっとのパートナー団体や食品提供企業を中心に、60名の参加がありました。他県のフードバンク団体の活動や、食品提供企業の取り組み、食品活用団体での活用の様子、食品ロスやごみ処理の現状報告がありました。フードバンク活動から見える貧困、食品ロス、ごみ、環境などの問題は、私

たちの暮らしと切っても切り離せない問題です。同じときを生きる私たちが協働し、一緒に取り組んでいかなければと改めて感じる機会となりました。



昨年度、あいあいねっとに提供いただいた食品は、約21tでした。いつも食品を提供いただき、本当にありがとうございます。年々取扱量は減少していますが、日々の活動の中で、食品企業様のロス削減への取り組みやフードドライブを通した個人の食品ロス削減への意識の高まりを感じています。以前とは違う、ここ数年の新しい変化を嬉しく思います。一方で、活用されない食品ロスもまだ多く在ります。フードバンク活動の認知拡大を図り、食品の寄付と活用を呼びかけ、より食物にアクセスしやすいネットワークを作り、誰もがその人らしく、安心して暮らすことのできる地域社会を築くお手伝いができますよう、今年も活動して参ります。

★日々の活動は、facebookで公開中

食べ物は食べるためにある！ “もったいない” のない社会を創る！



フードバンク活動

食品ロス削減活動

健康づくり活動・まちづくり活動

【編集・発行】

社会福祉法人 正仁会 あいあいねっと

■住所：広島市安佐北区可部3-9-21
 ■TEL：082-819-3023
 ■FAX：082-815-6666
 ■Email：aiainet@nagominosato.jp
 ■web：http://www.aiainet.org/

私たちは、食品関連企業から、規格外・包装破損・印字不良などの理由で、食べ物としては品質にまったく問題がないにもかかわらず、商品として扱えなくなった食品（食品ロス）を無償提供していただき、それを食べることに困っている人々のもとに届けるとともに、地域の活性化に活かしています。



『明けまして おめでとうございます』

社会福祉法人正仁会 フードバンク事業 あいあいねっと代表 原田佳子

旧年中は、たいへんお世話になりました。あいあいねっとは、NPO の頃から数えると、19 年目を迎えます。ここまで、活動を継続できたのは、ひとえに皆様方のご支援のおかげと心より感謝申しあげます。本年も引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

さて、2025 年は、食料の中でも日本人にとってなくてはならない米の話題で明け暮れました。美味しいご飯が食べたい、だけど価格が高い、と日々悩んでおられる方も多いのではと察します。あいあいねっとに寄せられる食料依頼の中で一番多いのが「米」です。「何もなくても取りあえず米さえあれば、何とかしのげる」と、よく言われます。そこで、新年に際し、改めて日本人にとっての「米」の意味を考えてみましょう。日本人にとって「米」は、単なる主食にとどまらず、歴史・社会・文化・経済・生活のあらゆる側面に深く根ざした存在です。稻作はおよそ三千年前に中国や朝鮮半島から日本列島に伝わり、やがて国の基盤を形づくる中心的な農業となりました。古代には米の生産が国家の力を支える要であり、江戸時代には年貢として徴収され、石高制によって大名の力が米の収穫量で測られるなど、米は経済の中核を担ってきました。まさに「米=富」であり、社会の仕組みそのものが米を中心回っていたのです。文化的にも、米は神聖な存在とされてきました。神話の中では、天照大神が稻を人々に授けたとされ、五穀豊穣を願う祭りや神事の多くが稻作と結びついています。神と共に食し神の力をいただくという意味の「いただきます」やフードバンク活動の掛け声でもある「もったいない」といった言葉には、米をはじめとする食べ物への感謝と敬意が込められています。また、日常生活においても、米は日本の食卓の中心にあり続けています。炊きたてのご飯、おにぎり、餅、日本酒など、米を使った料理や文化は数えきれません。近年は食の多様化が進んでいますが、それでも米は多くの家庭で欠かせない存在であり続けています。

このように、米は日本人の暮らしと心に深く根を張り、時代を超えて私たちの営みを支えてきたのです。やはり「米はすごい！」改めて米の底力を感じ取っていただけましたか。さて、消費者としては今年の「米」の価格が大いに気になる所ですが、今回の一連の米騒動から、一番困っているのは、生産者の方ではないでしょうか。生産者が頑張ってお米作りに専念できる環境こそ消費者が安心して米を食べ続けることが出来る。そう思っています。

「10月ごみ減らそうデー店頭キャンペーン」のお手伝いをしました・・・・

10月1日に、広島市環境局主催の「10月ごみ減らそうデー店頭キャンペーン」のアンケート調査をお手伝いしました。今回は、あいあいねっとに所属する食品ロス削減サポーターの7名が、店頭での牛乳パックや食品トレーの回収、食品の直接廃棄の現状、食品ロスを出さない工夫などを聞き取り調査しました。この調査は定期的に行われており、昨年度の結果では、食品ロス問題を知っている方は、98%と高く、大変うれしく思います。しかし、過去2~3ヶ月で食品を捨ててしまった人は37.5%。特に野菜の廃棄が多く、鮮度落ち、期限切れ、買いすぎたなどの理由が見られます。牛乳パックや食品トレーの店頭回収を利用している人は56%でした。牛乳パックも食品トレーも広島市のごみ収集では、その多くが可燃ごみ扱いとなってしまいますが、店頭回収を利用することで、確実にリサイクルすることができます。食品ロス削減やリサイクルに取り組む人が増えると、環境負荷が減り、持続可能で豊な生活の実現に近づけますね。毎月1日は、「ごみ減らそうデー」です。皆様のご協力をお願いいたします。





パートナーさんのご紹介

【祇園から食品ロスをなくそうプロジェクト】様は、2021年10月に広島経済大学の学生が立ち上げた、食品ロス削減をテーマに活動する団体です。食品ロス削減月間である10月に発足されたことからも、活動に意気込みを感じます。フードドライブで集まった食品を地域のこども食堂やあいあいねっとにも提供してくださいます。2025年には、これまでの活動が認められ、広島市「食品ロス削減推進表彰」も受賞されています。一緒に、食品ロス削減に取り組んでいきましょう！

地域と一緒に「もったいない」を減らそう！

広島経済大学
「祇園から食品ロスをなくそうプロジェクト」 池上連央

私たちプロジェクトは、食品ロス削減を“地域全体の取り組み”として広げていくことを目指し、昨年度は一年間を通してさまざまな取り組みを行いました。

◆主な取り組み

8月には、「いらない食材を大・変・身！」をテーマに、親子を対象とした料理教室を開催しました。余りがちな食材を使ったメニューを親子で調理し、家庭でできる食品ロス対策を体験してもらいました。

10月ではスマイル！ひろしま広場にて、あいあいねっと様と協働し、カルタやすごろくなど食品ロス問題について簡単に楽しく学べるゲームを使った啓発イベントを行いました。来場者の方々が楽しみながら食品ロスへの理解が深めてもらえる内容にしました。

11月の興動館で開催された祇園・興動祭では、今津農園様からご提供いただいた規格外野菜や豆腐を使ったオリジナルレシピを紹介。イベントでは自然食 café&bar ゆらり様と協働し、実際に料理の実演を行い来場者の皆さんにレシピをまとめた冊子を配布しました。



スマイル！ひろしま広場でのかるたの様子



祇園・興動祭でのオリジナルレシピ紹介

◆今後に向けて

地域の皆さんに食品ロスをもっと身近に感じてもらえるよう、今後も楽しく分かりやすいイベント作りを続けていきます。一人一人の小さな工夫が食品ロス削減に繋がります。一緒に「もったいな



『エッセンシャル（絶対不可欠）な仕事として永続的に』

社会福祉法人正仁会 業務執行理事 松林克典

2026（令和8）年、新春を迎え、ご挨拶を申し上げます。新年明けましておめでとうございます。旧年中は一方ならぬご厚誼・ご厚情を承り、誠にありがとうございました。

さて、今年は丙午（ひのえうま）です。十干十二支でまわる干支は60年周期です。60年前の丙午（1966年）は、迷信のために、私が産まれた前年巳年から50万人もの出生者が減少しました。現在の年間出生者数は、昨年実績で69万人弱です。同じことは起こるはずもありませんが、もし起きてしまったら、今年の出生者は20万人を割ることになってしまいます。

先頃（2025年11月18日）政府によって人口減少問題に対応するために設置された「人口戦略本部」初会合において、高市首相は「わが国最大の問題は人口減少」と述べられました（中国新聞）。社会保障制度の給付と負担、医療・介護・福祉や交通、上下水道など公共サービス維持やインフラ整備など様々な点で、制度の再構築が必要ですが、最近10年の人口減少スピードは、政府の試算をはるかに超えて加速度的です。データ集計の根拠として、最も搖るぎがなく予測を裏切らないはずの人口動態データのスピードを凌駕して人口減少が続いています。このままでは、日本社会を支える働き手が、どの産業においても枯渇してしまいそうです。若者が子どもを作らない最も大きな要因の一つが、先を見通せない経済・社会保障の環境だと思われます。

私たちは社会保障サービスの担い手として、我が業界に若者が目を向けてくれるような魅力を発信しつつ、将来に安心感を抱ける社会創設の一端を担っていかなければなりません。エッセンシャルな私たちの仕事が、しっかり永続できるよう、今年も様々な工夫を凝らしていきたいと考えています。是非とも、皆様方にも今後ますますのお力添えを賜りたいと願っております。本年も引き続き、よろしくお願ひ申し上げます。

私たちの活動をご支援いただいている事業者様・団体様をご紹介します

株式会社あじかん◆有限会社アトラス・コーポレーション◆アルフレッサファーマ株式会社
アヲハタ株式会社◆株式会社イズミ◆イズミ・フード・サービス株式会社
株式会社エコールドフルール◆江崎グリコ株式会社◆株式会社SKY コーポレーション
NTT労働組合中国総支部◆株式会社エムズホーム◆株式会社M&K◆株式会社M&C コラボレイション
おおたけ株式会社◆株式会社沖野建築設計◆キユーピー株式会社広島支店◆医療法人社団恵正会
カルビー株式会社◆株式会社三幸産業◆株式会社サンリブ◆ジャパンフード株式会社
生活協同組合ひろしま◆株式会社そごう・西部 そごう広島店◆ダイキヨーニシカワ株式会社
ダイハツ広島販売株式会社◆株式会社ダイヤス食品◆大和リース株式会社広島支店
中国電力株式会社◆中電環境テクノス株式会社◆東京海上日動火災保険株式会社
東芝テックソリューションサービス株式会社◆堂本食品株式会社
株式会社ナリコマエンタープライズ◆有限会社ニシオカ◆西日本高速道路パトロール中国株式会社
日本労働組合総連合会広島県連合会◆広島アグリフードサービス株式会社◆広島駅弁当株式会社
広島ガス株式会社◆広島県労働者福祉協議会◆公益財団法人広島市農林水産振興センター
広島綜合警備保障株式会社◆広島海苔株式会社◆広島バスセンター◆広島森永乳業株式会社
株式会社フォーリーフ◆株式会社フジ◆藤井医療器株式会社◆株式会社藤三◆株式会社ポプラ
マルサンアイ株式会社◆ミック株式会社
三菱地所株式会社及び三菱地所プロパティマネジメント株式会社◆株式会社ミライト
株式会社三國屋安芸太田工場◆株式会社ミルックス広島支店◆明治安田生命保険相互会社
メガガイア可部店◆山崎製パン株式会社広島工場◆株式会社ユアーズ

